

自立相談支援センター「これから」の報告

9月5日は、自立相談支援センター「これから」に行って助成事業に関して説明と連携による支援を働きかけました。

室長ほか重層的支援を実施していることもあり各専門職の担当職員がそれぞれの立場で参加して意見交換をすることになりました。

以前は、生活困窮者に対する支援が中心でしたが、困窮によってひきこもりにつながったりする中で重層的支援を目指して、生活のこと、仕事のこと、家計のことなどの困りごとや悩みごとの相談を受けている機関です。（相談無料、秘密厳守）

「これから」の機関の中にひきこもり支援として「ひだまり」という相談支援機関があり、職員2名で対応されている現状ですが、家族の相談に対して重層的に課題に対応するという姿勢で他の専門職と連携して支援されているということでした。

今回のWAM助成事業の「不登校やひきこもりの初期介入支援」ということで、不登校やひきこもりに対して親が初期の段階でしっかりした支援を求めることで早期の解決につながるのは必然で、親の意識によって早期に回復するか、長期化するか、の分かれ道になるという現状です。

親からの相談に、適切に早期に支援できることが今回の助成事業の目的であるのですが、長期化の中でひきこもっている家族の不安を少しでも解消するためにも支援として実施する考えなので相談があったら連携して支援できることを実現したいと伝えました。

精神科訪問看護師の特徴として、不安や悩みを共に向き合って考えてくれるという姿勢を持っていることが最大の特徴で、継続支援としては、週1回（1時間以内）が基本ですが、ただ相談者に応じて対応は考えることにしています。

また、医療支援以外に生活支援など家族に寄り添った伴奏型の支援を実施しますので、家族からすれば身近なところに相談できる第三者の支援者がいることが、日々の生活の中で心強く感じていただくことになることが、とても理に叶った助成事業だと評価していただきました。

今回の助成事業のひきこもりに関しての現状と WAM 助成事業支援内容。

1. 現状と課題

- ・ 宮崎県内のひきこもり者数：約 10,000 人（宮崎市：約 3,500 人）
- ・ 多くの家庭が「相談はしたが、具体的な支援につながらない」状態
- ・ 支援が遅れると、孤立や学びからの断絶が長期化して家族が疲弊
- ・ 家族だけで抱えきれないケースが増加中

2. 早期支援の必要性

- ・ 初期段階で訪問型の伴走支援を行うと、復学や社会参加の可能性が高まる
- ・ ひきこもりの初期の支援によって長期化を避ける
- ・ 長期化によって二次障害としての精神疾患の罹患を食い止める
- ・ 保護者の不安や孤立感が軽減され、家庭関係の悪化を防止する
- ・ 家族の長期にわたる経済的・精神的な負担による疲弊を軽減する
- ・ 就労・地域活動・社会資源の情報提供など多様な選択肢へ橋渡し可能

3. WAM 助成事業の特徴

- ・ 福祉医療機構（WAM）の助成により、今年度より訪問看護師に有償での支援事業開始する
- ・ 訪問支援を軸に、学校・家庭・地域をつなぐ「初期介入モデル」を構築
- ・ 制度の空白になりやすい初期段階に焦点を当て、切れ目のない支援を実現
- ・ 訪問看護ステーションの看護師の特徴やスキルを活かして訪問型の伴走支援を継続的に実施して、傾聴を基本に家族や子供に対しての生活支援や地域の支援機関の情報提供、緊急の場合に医療支援ができることも訪問看護師の持っているスキルで、医療支援のみでなく家族に包括的な支援を提供できることが最大の特徴です。

4. 訪問支援を推進する訪問看護ステーション

- ・ 訪問看護ステーション栞
- ・ 訪問看護ステーションハピネス
- ・ 訪問看護ステーションフローレット
- ・ 訪問看護ステーション心奏
- ・ 訪問看護ステーションかえるのほっぺ
- ・ 訪問看護ステーションおあひ
- ・ 結訪問看護ステーション
- ・ 訪問看護ステーションオリーブ
- ・ 訪問看護ステーション笑歩
- ・ 訪問看護ステーションベスト
- ・ こどもとおとなの訪問看護ろけっと★ステーション

**不登校・ひきこもり初期支援事業
想定問答集（Q&A）**

相談支援機関向け

Q1. 本事業の支援はどのような内容ですか？

A: 訪問による初期支援が特徴です。家庭に直接出向き、本人や家族の話を丁寧に聴きながら信頼関係を築き、安心できる日常を取り戻すお手伝いをします。

Q2. 本人や家族が支援を拒否する場合は？

A: 無理に関わらず、まずはご家族の不安を受け止めることから始めます。焦らず、寄り添いながら自然に次の一步が踏み出せるよう支えます。

Q3. 医療や学校との違いは？

A: 専門機関につながる前段階を支えるのが役割です。支援の入り口を広げ、安心感を与えることで、必要な機関につながりやすくします。

Q4. 相談支援機関として何をすればいいですか？

A:

- ① 医療や専門機関につながりにくい家庭に本事業を紹介すること。
- ② 必要時に情報を共有し、初期から連携して伴走すること。

Q5. 個人情報の扱いは？

A: 本人・家族の同意を得たうえで、必要最小限の情報に限り共有します。守秘義務を徹底します。

Q6. 期間や費用の負担は？

A: WAM 助成を受けているため、費用負担はありません。期間は家庭の状況に応じて柔軟に対応します。

Q7. どのようなケースを紹介すればいいですか？

A:

- ・ ひきこもりが続き、家庭が不安を抱えている
 - ・ 医療や専門機関につながることをためらっている
 - ・ 家族が孤立し、相談できる場がない
- こうしたケースに初期支援が有効です。